

福者シスターマリア・アントニーナ クラトフヴィルのノベナ

ノートルダム教育修道女会
(1881年8月21日-1942年10月2日)



シャロームの 保護者

はじめに

このノベナでは、福者シスター・マリア・アントニーナの賜の9つの側面に光を当てて祈ります。

- 輝く証し人
- 勇敢にイエスに従う人
- 精神においても生活においても単純で簡素な人
- 真実に敵を愛した人
- 神にゆるぎない信頼をおいた人
- 真の愛で悪にうち勝った人
- 仲間の囚人を霊的に支えた人
- 子どもと若者に身を捧げた人
- 最期まで神の御旨にゆだねた人

シスターの賜の各側面を、当日の福音のみことばと、関連する『Y A S』の箇所
に照らして省察し、私たちの生き方に指針をいただきます。私たちもシスターと同じよ
うに、神の愛の真の証し人になれますよう、自分の課題に耳を傾け、その課題が
自分の深いところに触れるよう心を開きましょう。

ノベナの毎日の祈り

三位の神よ、私たちの姉妹

福者マリア・アントニーナ・クラトフヴィルという贈り物に
感謝を表わすため、今、私たちはあなたの御前に立っています。

- 第 1 日: 輝く証し人
- 第 2 日: 勇敢にイエスに従う人
- 第 3 日: 精神においても生活においても単純で簡素な人
- 第 4 日: 真実に敵を愛した人
- 第 5 日: 神にゆるぎない信頼をおいた人
- 第 6 日: 真の愛で悪にうち勝った人
- 第 7 日: 仲間の囚人を靈的に支えた人
- 第 8 日: 子どもと若者に身を捧げた人
- 第 9 日: 最期まで神の御旨にゆだねた人

シスター・マリア・アントニーナの取り次ぎによって
私たちの心を開き、
今日の世界であなたの愛の真の証し人になれますよう、
シスターがいただかれた数々の恵みを
私たちにもお与え下さい。アーメン。

第 1 日 - 6 月 3 日

輝く証し人

神のことは: ともし火をともし、それを器で覆い隠したり、寝台の下に置いたりする人はいない。入って来る人に光が見えるように、燭台の上に置く。(ルカ 8 : 16)

会憲: キリストにおいて、全き人となるよう成長するにつれ、私たちはよきおとずれを宣べ伝えるために、より一層統合され、自由にされていく。(会憲 46)

祈りましょう: 主イエスキリスト、福者シスター・マリア・アントニーナは、あなたのうちに人としての開花を求め続けました。彼女の生涯を眺めると、彼女は光であり、怖れや疑いが彼女のあなたへの愛をかげらせることはありませんでした。私たちにありのままの自己を見つめる恵みをお与えください。それによって私たちがもっと統合された者となり、福音を宣べ伝える力をもっといただくことができるようになるためです。

福者シスター・マリア・アントニーナ、

神の愛の輝く証し人、

私たちのためにお祈りください。

第 2 日-6 月 4 日

勇敢にイエスに従う人

神のことは: すぐその後、イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた。(ルカ 8 : 1)

会憲: 私たちの使命は、ノートルダム教育修道女会会員として、イエスキリストが「1 つにする」ために遣わされたように、全生涯をかけて、そのためによきおとずれを宣べ伝えることである。世に対する御父の愛を示すために、イエスが遣わされたように、私たちも愛、信仰、希望を分かちあうことによって、自らの存在で、人々にキリストをあらわすことができるように遣わされている。(YAS 4)

祈りましょう: 主イエスキリスト、福者シスター・マリア・アントニーナは SSND として、愛、信仰、希望を他の人と分かち合い、あなたご自身がそのためにこそ地上に来られた「一致」のために命をささげました。私たちも世にあなたを示すことができるよう、熱い愛、深い信仰、ゆるぎない希望の恵みをお与えください。

福者シスター・マリア・アントニーナ、
勇敢にイエスに従う人、
私たちのためにお祈りください。

第3日-6月5日

霊性においても生活においても単純で簡素な人

神のことは: イエスは神の国を宣べ伝え、病人をいやすために遣わすにあたり、次のように言われた。「旅には何も持って行ってはならない。杖も袋もパンも金も持って行ってはならない。下着も二枚は持ってはならない。(ルカ9：2-3)

会憲: 私たちは、三位の神に聖別され、遣わされて、あがなわれてはいるが、未だ罪深いこの世界に、神の国がもっとはっきりと現われるように生活する。今も存在し、かつ到来するはずの神の国の卓越性を、私たちは預言的に告げ知らせる。誓願生活を生きる私たちは、キリストに従う別の生き方に召された人々と補いあって、全キリスト者共同体をかたちづくり、互いに支え、チャレンジしあう。私たちは共にキリストの使命を継続するのである。(YAS12)

祈りましょう: 主イエスキリスト、福者シスター・マリア・アントニーナは極度の飢えのさ中にも、わずかな日々のパンを他の囚人に分かち合いました。そして心の中には、いつも貧しい子どもたちのための特別な場所がありました。私たちにひと切れのパンを求める人を理解する恵みをお与えください。私たちの心が他の人を助けることへと開かれ、キリストの使命を遂行し続けることができますように。

福者シスター・マリア・アントニーナ、
霊においても生活においても単純で簡素な人、
私たちのためにお祈りください。

第 4 日 - 6 月 6 日

真に敵を愛した人

神のことは: しかし、ヘロデは言った。「ヨハネなら、わたしが首をはねた。いったい、何者だろう。耳に入って来るこんなうわさの主は。」そして、イエスに会ってみたいと思った。(ルカ 9 : 9)

会憲: ノートルダム教育修道女会会員としての福音的清貧の生き方は、私たちが貧しい人々への奉仕へと向かわせる。私たちは、貧しい人々の思いを自分のものにするによって世の罪深さから生じる多くの人々の痛みを、身をもって感じるようになる。教会の教えと指導のもとに、私たちは特にそれぞれの場で、平和、正義、愛の実現を目指して、不正義の源をとり除くように、積極的に活動する。(YAS17)

祈りましょう: 主イエスキリスト、福者シスター・マリア・アントニーナは、あなたの恵みに強められ、あなたの模範に従い、欠点、侮辱、迫害、死さえも神の国のために受け入れる覚悟でした。暴力、まやかし、残虐行為が私たちが恐怖に陥れている現代、私たちは祈ります。あなたの愛が私たちの間に、あらゆる国の間に広がりますよう、私たちをあなたの平和と和解の道具とらせてください。

福者シスター・マリア・アントニーナ、

真に敵を愛した人、

私たちのためにお祈りください。

第 5 日 - 6 月 7 日

神にゆるがない信頼をおいた人

神のことは: イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」(ルカ 9, 20)

会憲: キリストの愛を体験して豊かにされた私たちは、全てをはからって下さる神に限りない信頼をもってキリストに従おうとする。(会憲 15)

祈りましょう: 主イエスキリスト、命を脅かす状況を生きた福者シスター・マリア・アントニーナにとって、あなたは救い主である神でした。シスターはあなたに全き信頼をおくことで、過ぎ越しの秘儀に導かれたのです。私たちも、どのような困難にあっても、あなたへのゆるぎない信頼を持ち続けることができますよう、あなたへの信頼の恵みをお与えください。

福者シスター・マリア・アントニーナ、

神にゆるがない信頼をおいた人、

私たちのためにお祈りください。

第 6 日-6 月 8 日

真の愛で悪にうち勝った人

神のことば: この言葉をよく耳に入れておきなさい。人の子は人々の手に引き渡されようとしている。(ルカ 9:44)

会憲: イエスを記念し、その模範にならって、私たちもあますところなく人々に自分を差出、また、人々から感謝して受けることによって、ユーカリスト的生き方を、私たちの日々の生活の中に繰り広げていくように強く促される。・・・神の底知れぬ愛に照らされて、私たちは十分に愛さなかったことがわかり、神に立ちもどり、そして、互いが再び一致することの必要を体験する。私たちはみな回心すること、愛に立ちもどるという生涯かけての同じ道を歩み続けることを、徐々に学んでいく。(YAS 34, 36)

祈りましょう: 主イエスキリスト、福者シスター・マリア・アントニーナは、変わることのない愛にはいやす力があると信じていました。今日もなお、敵意や暴力が家族、文化、社会を破壊し続けており、世界はいまだに不正義や、人種間、民族間、国家間の紛争、人生に対する見解の相違で引き裂かれ、分裂しています。私たちに引き裂かれた世界で一致のあかしとなる勇気をお与えください、そしてどこにいても、和解への努力をすることができますように。

福者シスター・マリア・アントニーナ、
真の愛で悪にうち勝った人、
私たちのためにお祈りください。

第 7 日-6 月 9 日

仲間の囚人を靈的に支えた人

神のことは: ある金持ちがいた。いつも紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。この金持ちの門前に、ラザロというできものだらけの貧しい人が横たわり、その食卓から落ちる物で腹を満たしたいものだと思っていた。(ルカ 16 : 19-21)

会憲: 信念をもって不正義に対抗するためには、自分が正しく行動しなければならない。簡素に生き、人間の労働を正しく評価し、1 人 1 人をかけがえのない人間として大切にする。そして人間としてこのような生き方ができるのだと人々に証しする。キリストの恵みに強められ、キリストにならい、私たちは神の国のために、欠乏、侮辱、圧迫、死などの苦しみに喜んで耐える。(YAS 17)

祈りましょう: 主イエスキリスト、第 2 次世界大戦中囚人となった福者シスター・マリア・アントニーナは、極限の疲労と不正義の中でも、他の囚人に仕えました。話を聴き、助言をし、彼らの心を神の前における真の痛悔へと導き、迫害する人々のために祈り、自らの苦しみを教会のために捧げました。私たちが、不正義や理解できない事柄、身に危険の及ぶ有害な事に遭遇した時にも、自分のことで精いっぱいになることなく、他者の必要に気づくことができますよう、どうか内面の平和の恵みをお与えください。

福者シスター・マリア・アントニーナ、
仲間の囚人を靈的に支えた人、
私たちのためにお祈りください。

第 8 日 - 6 月 10 日

子どもと若者に身を捧げた人

神のことは: イエスは言われた。「わたしの名のためにこの子供を受け入れる者は、私を受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。(ルカ 9 : 48)

会憲: 深い信仰と勇気によって、マザーテレジアは求められるままに、あらゆる場でその必要に応えるため、人材や資源などの乏しさにもかかわらず、全てをかけたのである。この創立者の精神をもって、私たちが今の時代に示される神の呼びかけに応える。彼女のように私たちも、学校、その他さし迫った必要の場で教育にたずさわり、誰をも自分たちの配慮から除外せず、特に、青少年と女性の必要に敏感に心を配り、貧しい人々を優先する。(YAS 24)

祈りましょう: 主イエスキリスト、福者シスター・マリア・アントニーナは、無私の愛で子どもたちをつつみ、いつも子どもたちの心を神へと向かわせました。シスターの母の愛は、特に貧しく、見捨てられた子どもたちをしっかりと抱擁しました。若者がシスターに母を見出すと、彼女は若者の霊的生活と人間としての真の成長を心にかけて導きました。私たちも、今日の世界で、子どもや若者の人間としての十全な成長を支援できる恵みをいただくことができますよう祈ります。

福者シスター・マリア・アントニーナ、

子どもと若者に捧げた人、

私たちのためにお祈りください。

第9日-6月11日

最期まで神の御旨にゆだねた人

神のことは: イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。(ルカ 9, 51)

会憲: 神との完全な一致のために創造されて、私たちはこれからも、未来に向けてますます主と一致するように努力する。・・・私たちの人生を導くこの根本的な推進力は、生を通して準備される死の瞬間に最高に発揮される。死に望んで、私たちは創造主に人間としての最終的承諾を表わす。生を全うさせて下さる神の力に信頼して、私たちは、死を礼拝行為とみなす。・・・希望と平和のうちに、私たちは主の喜びに入る。(会憲 48, 47)

祈りましょう: 主イエスキリスト、福者シスター・マリア・アントニーナは、神の恵みに強められ、あなたの模範に従い、神の御国のために、欠点、侮辱、迫害、死さえも受け入れる覚悟でした。暴力や、まやかし、残虐行為に圧倒される今の時代に、神の御旨を成し遂げることができますようお助けください。あらゆる困難にうち勝つのはあなたの力なのですから。

福者シスター・マリア・アントニーナ、
最期まで神の御旨に捧げた人、
私たちのためにお祈りください。

福者マリア・アントニーナ・クラトフヴィル

SSND (1881 年-1942 年)

シャロームの保護者

シスター・マリア・アントニーナ・クラトフヴィルは、1881 年 8 月 21 日、両親が 1879 年以来仕事のために移住していた、オストラヴァの近くのウイコワイスで生まれました。1885 年、両親は子どもたちを連れて、母の故郷ベギエルスカグルカに戻りました。

1901 年、ノートルダム教育修道女会に入会。志願者として、また誓願を立てた後も、ポーランド人の小学校で教えるため、カルヴィナー（1906 年—1909 年、1910 年—1917 年）と、後にリヴィウに（1917 年—1925 年）派遣されました。1925 年から 1932 年には、院長を務め、寄宿学校の責任者、トルマズで修道会の志願長を兼務しました。1931 年校長に任命されてリヴィウに戻り、志願長も続けました（1931 年—1939 年）。1940 年から 1942 年までは、ミクリツインで院長を務めました。

第 2 次世界大戦がはじまると、シスターは学校から退去させられ、ミクリツインのシスターの共同体も、修道院から追い出されました（1940 年 2 月—1941 年 6 月）。1942 年 6 月 9 日、シスターマリア・アントニーナは 6 名のシスターたちと共に逮捕され、スタニスラオの刑務所に入れられました。シスターは非人間的な極限状況（飢え、鞭打ち、拷問、あざけり）に耐え、キリスト者としての愛、信仰、ゆるしを証し、シスターたちと一緒に収監されていた人々に希望を与えました。刑務所から釈放された 5 日後、1942 年 10 月 2 日に、シスターアントニーナは、拷問の結果とチフスのために亡くなりました。

シスターアントニーナは、深い信仰の女性、賢明で有能な教師、そして素晴らしい人でした。一緒に働いたシスターたちや一般信徒は口をそろえて、s.アントニーナは底抜けに善良で、親しみやすく、自分の召命を愛し、喜びをもって生きていたと証言しています。本物の安らかさと平和が、シスターからにじみ出ていたのです。子どもたち、とりわけ貧しく見捨てられた子どもたちを愛しました。シスター・マリア・アントニーナ・クラトフヴィルは、1999 年 6 月 13 日に、ワルシャワでヨハネパウロ 2 世により、第 2 次世界大戦中の 108 人の殉教者と共に列福されました。毎年 6 月 12 日を記念日として祝っています。